

ホホジロザメ成魚の全身液浸標本を日本初公開！  
**『海のハンター展』開催決定！**  
2016年7月8日(金)～10月2日(日)／国立科学博物館

国立科学博物館、日本経済新聞社、BS ジャパンは、7月8日(金)から10月2日(日)まで、「海のハンター展 ～恵み豊かな地球の未来～」を開催します。

私たちの生活圏を取り巻く大海原では、今、この瞬間にも海の生物たちが“食う・食われる”のドラマを繰り広げています。食う側＝ハンターにとって、いかに効率よく狩りを行うかということが、生き残るために大変重要な問題となります。狩りは、肉食の生物が生きていくために必要な「エネルギー獲得の手段」にほかなりません。本展では、「捕食」を切り口とし、「顎」や「歯」を含む「口」にスポットを当て、海洋生物にみられる多様な狩りの方法を紹介



します。また、私たち人間も水産資源をはじめ海から多くの恵みを得ているハンターととらえ、これからの海との関係を探ります。

本展の見所は、日本初公開となる「ホホジロザメ」の成魚の全身液浸標本です。ホホジロザメは最も有名なサメであるにも関わらず、長期飼育が大変困難な魚類で、その生態は今だに謎が多く残されています。本展では、(一財)沖縄美ら島財団の特別協力のもと、冷凍保存されている3.2mのホホジロザメのオスの成魚の個体(=写真)を研究のために液浸標本とするとともに、国立科学博物館(東京・上野)で日本初公開するプロジェクトを推進中です。

このほかにも、ネズミザメ、シロワニ、バショウカジキなどの大型魚類、シャチやミナミゾウアザラシといった大型海生哺乳類など現生動物の標本や、首長竜、魚竜、太古の大型魚類の骨格や化石など絶滅動物の標本も展示します。ハンターたちの捕食シーンや遊泳シーンを中心に生態を捉えた貴重な映像も展示上映し、海のハンターを総合的に紹介する空間を創ります。

【開催概要】

- 名称：「海のハンター展 ～恵み豊かな地球の未来～」
- 会場：国立科学博物館(東京・上野公園)
- 主催：国立科学博物館、日本経済新聞社、BS ジャパン
- 会期：2016年7月8日(金)～10月2日(日)